「人の気持ちは言葉で変えられる」

岡崎 郁李 さん（坂祝小学校６年生）

「やってみたいな、でもなんだか恥しいからやめておこう。でもやっぱりやろうかなぁ。」ともじもじしてしまう私。けれど、五年生の時、担任の先生や主任の先生の言葉で、私の意識が変わったことがありました。先生は、クラスのみんなの輝いている姿をプリントで紹介したり、輝いているクラスメートのエピソードを話してくれました。どんな時でも、見てくれて、「郁李さんありがとう。」「みんなのために動いてくれて頼りになります。」「誰にでも優しくできることは、すばらしいね。」と声をかけてくれました。

私は、気分よく家に帰ると、家族に、いつも話をしました。おじいさん、おばあさんも「そうかよかったねぇ。」とにっこりほほえみながら、聞いてくれるのが、私は、うれしく自信を持っていきました。

言葉は、人を元気にし、温かい気持ちになります。認めてもらえることで、思ってもみない力を発揮することもできます。

「よし、やってみよう。」と思い私は、五年生の終わりの頃に委員会の委員長に立候補しました。六年生の前期に、委員長として、活動することができました。

私達は、言葉で喜び、言葉で怒り、言葉の力で、人は勇気をもらい、新しい一歩を踏み出すことができます。このことは、どんな相手から言われても心に伝わります。

私の七才年下の妹に「お姉ちゃんありがとね。」と言われても温かい気持ちになれます。

人間にしか、使うことのない言葉。一つの言葉で優しい心になれて、一つの言葉で心が痛み、悲しくなってしまう。一つ一つの言葉は、相手にどのような事でも伝わってしまいます。

学校やニュースでも、新型コロナウイルス感染者のことで、心ない言葉をかけられてしまい、ひどく悲しい思いをすることも知りました。だから、私は、人をきずつけるような言葉を相手に使うことは、したくありません。

言葉は、とてつもなく、大きな影きょう力があります。私が、経験したように、勇気をもらえた時のように相手にとって良いことにつながるように使っていきたいと思います。

「私は、大人になったら、保育士になりたいです。」これは、四年生の時、二分の一成人式でみんなの前で発表した私の言葉です。今でも、この気持ちは、変わっていません。むしろ日に日にあこがれが強くなっています。

誰にでも優しくでき、心が温かくなる言葉をかけていける人になりたいです。そして、将来の夢を叶えたいという強い気持ちをもって、一歩ずつ前向きに進んでいきたいと思います。

「日本に来て学んだこと」

ボムザン ビームさん（中日本自動車短期大学）

私は2018年4月に日本に来ました。日本に来て学んだことはたくさんあります。私だけでなく、留学生のみなさんが日本に来てから学んだことや経験したことは、心に深い印象として残っていると思います。今日はその中で私が経験した二つのことを話したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

まず一つ目は社会のマナーについてです。私は日本に来て、他人の気持ちも考えながら、他人に迷惑にならないように社会のマナーを守ることが大事だと学びました。

実は、私は日本に来るまで電車というものに乗ったことがありませんでした。日本に来て初めて電車に乗りました。しかし日本の電車に乗ってみると、自分が予想していたこととぜんぜん違ってびっくりしました。電車に乗ると、とても混んでいる時がありますが、そんなときでも、車内はとても静かな雰囲気におどろきました。なぜみんな話をしないのか、どうしてこんなに静かにするんだろうかと思いながら、学校の先生に聞いてみました。すると先生は、「それは国のルールではなく社会のマナーなんだよ」と教えてくれました。ルールではないのに皆さんが自分のことだけではなく、相手のことを大事にして行動していることにはとても感動しました。

どうしてこんなに驚いたのかと考えてみると、どうやら子供のころのことが原因の一つだと思い当たりました。私は小さいころからインドの映画をよく見ていましたが、その影響で駅はとてもにぎやかな所で、電車の中は混んでいて泥棒もいっぱいいると考えていました。ですから、日本の駅や電車の中もそれと同じだと考えていたのだと思います。そして子供の頃に受けた影響というのは本当に大きいのだと感じました。

では次に、日本に来て学んだ二つ目のことを話します。それは「約束」についてです。皆さんは、ちょっとした約束をどれくらい守りますか？私の友達に辛島さんと言う方がいます。ある日、辛島さんと夏休みにどこかの安い食べ放題の店に行くことが話題になりました。私は、その安いお店の名前は何なのかと聞くと、辛島さんは名前を今度調べてくるねと言ってくれました。ただ、私は辛島さんにそのように言ったものの、その返事はたいして期待はしていませんでした。でも次の日に辛島さんは私のために、わざわざそのお店に行ってお店の名刺まで取って来てくれたのです。私は本当に驚きました。ほんのちょっとしたことではあるのですが、なかなかできないことだなと感じました。それ以来、私は辛島さんのことを信頼出来る人だなと思うようになり、そのあとも辛島さんとは仲のいい友達としてつきあっています。

私の国ネパールは、日本と全然違い、100％約束を守る人はとても少ないと思います。しかしそんなネパールでも、誰かと約束をする時、指を喉に触れて（AAMAKASAM）と言います。その意味は、「あなたとの約束を自分の母のように大切にするよ」と言う意味です。日本の“指切りげんまん”のようなものです。しかしそのように約束を大切にすると言ったのに、どうして守らない人が多いのかと言うと、こんな答えが返ってきます。例えば、「ほかの人も約束を守っていないから自分も守らない」と言う人や、中には「約束をするのは破るためでしょう」という人さえ多くいます。

人間と言うのは、他人のやっていることを見て学ぶ動物ですから、社会のマナーや躾などは、子供のころから習わないと、いい人間に成長できないのではないでしょうか。

留学生の皆さんは、日本に来たばかりのころと比べて、今の自分はどこが違うと思いますか？私はこのような経験を通して、考え方が大きく成長したように感じています。